

DBJ SHIKOKU RESEARCH NO. 4

四国における県都の役割について

経済的中枢管理機能を中心として

1. 問題意識

四国 4 県の県庁所在市(県都)は、従来より行政面、人口面、経済面において県内では圧倒的な地位を占めている。特に高松市は支店経済と呼ばれ、四国地域において県域を超えた中枢的な役割を担ってきた。しかし、交通インフラの充実に伴う地域間交流の増加及び地域間競争の激化により、県都といえども中枢管理機能、拠点性が低下する危険性を常に孕んでいる。本調査は、こうした問題意識の下、高松市を中心に 4 県都の経済的中枢管理機能を検証し、四国地域全体が進むべき方向性について検討を行った。

2. 4 県都における中枢管理機能の検討

本調査では、4 県都の中枢管理機能を 人口、 市内総生産、 民営事業所の集積、 卸売業の 4 つの側面から検討した。その結果、以下の特徴が明らかとなった。

- ・人口規模では 4 県都は分散しているが、県都への人口集中度、生産年齢人口比率が高まる傾向にある。人口動態では香川県を中心とした人的交流が概ね活発であるが、四国地域内に分散しつつある。今後は、少子・高齢化により生産年齢人口が低下すると予想され、拠点性の維持に楽観は許されない。
- ・市内総生産は、4 県都に集中しており、特に卸・小売業等の第 3 次産業の集積が高い。
- ・民営事業所では、現在でも香川県に最も県外企業が多く立地しており、香川県は四国の経済活動の拠点機能を果たしている。一方、他 3 県でも支店の展開が急速に進んでおり、中期的には分散化している。
- ・卸売業では香川県が四国地域において中心的な役割を担っているものの、そのシェアは減少傾向にあり、分散化の動きが見られる。
- ・以上の結果から、4 県都それぞれに経済的中枢管理機能が認められ、特に高松市については四国地域全体に及ぶ中枢管理機能が認められるものの、近年、他 3 県への分散化の動きが顕著となっている。

3. 他地域との比較

さらに代表的な地方中枢都市である広島市、福岡市と 4 県都の中枢管理機能について比較した結果、四国地域は、支店経済とされる高松市においてさえ、両市ほど人口並びに経済が集積していないことから、四国地域は中国、九州地域の一極集中の地域構造とは違い、分散型の構造にある。

4. 4 県都の進むべき方向性について

このように交流・連携が行ないやすい環境にある四国地域では、今後、都市の優位性を生かした魅力ある都市づくりが必要である。既に取り組まれているものもあり、各県都の優位性はこの限りではないが、4 県都の都市づくりについて一つの方向性を示せば以下の通り。

- ・徳島市 関西経済圏との近接性を生かした都市づくり及びベンチャー支援等新規事業育成の強化。
- ・高松市 事業所の集積を生かした支店経済の維持・強化。サポート高松等まちづくりの強化。
- ・松山市 既存の施設等を活かした国際コンベンション都市化。道後温泉等を生かした都市づくりの強化。
- ・高知市 高知新港の活用による国際物流拠点化。観光資源を生かした都市づくりの強化。

以上の都市づくりの方向性を踏まえ、4 県都の結びつきをより強化する取り組みは以下のとおり。

- (1) 各県都間を結ぶ大量高速輸送手段の導入(フリーゲージトレイン等)
- (2) 国際会議、メッセ等コンベンションの共同誘致(周遊型の国際会議等)
- (3) 共同でのポートセールス等による国際コンテナ航路の共同誘致
- (4) テーマ性を持った 4 県による観光周遊ルートの確立、PR 等

以上